

# 美作国のできごと

- 4世紀初頃 美和山古墳群が築かれる
- 645 大化の改新
- 701 大宝律令制定
- 713 備前国北部6郡を割いて美作国建国。上毛野朝臣堅身が国守になる
- 741頃 美作国分寺の造営が始まる
- 1184 梶原景時が美作守護になる
- 1192 鎌倉幕府が開かれる
- 1332 元弘の変に敗れた後醍醐天皇が隠岐に流される途中、美作国を通過
- 1336 室町幕府が開かれる
- 1441 美作守護・赤松満祐が將軍・足利義教を謀殺（嘉吉の乱）
- 1467 応仁の乱が起きる
- 1532 出雲国の尼子氏が美作国へ進攻
- 1600 関ヶ原の戦いが起こる
- 1603 森忠政が美作国（18万石余）を拝領
- 1604 森忠政が津山城を築城（～1616）
- 1695 生類憐みの令に関連し、津山藩は江戸郊外に犬小屋建設を命ぜられる
- 1697 津山藩主森家断絶する
- 1698 松平長矩が津山藩主になる（10万石）
- 1726 山中一揆が起こる。津山藩5万石になる
- 1792 津山藩医・宇田川玄隨が津山で腑分け（人体解剖）を行う
- 1817 11代將軍家斉の子を養子に迎え、津山藩10万石になる
- 1837 津山藩の領地替えにより小豆島の西半分を領有
- 1853 黒船が来航し、箕作阮甫らが米国大統領の国書を翻訳
- 1867 大政奉還が行われ、江戸幕府が倒れる
- 1871 廃藩置県により津山県・鶴田県・古河県などが設置される（のちに北条県に統一）
- 1876 北条県が岡山県に合併する
- 1881 矢吹正則の「美作略史」が刊行される
- 1900 津山城跡が鶴山公園となる
- 1910 津山電気株式会社操業、津山に初めて電気が灯る
- 1917 津山産業博覧会開催
- 1929 津山町など6カ町村が合併し津山市となる（市政施行）
- 1939 平沼騏一郎が第35代内閣総理大臣になる
- 1945 太平洋戦争が終わる
- 1975 中国自動車道の吹田IC～落合IC間が開通
- 1981 諫早市・出雲市・津山市3市で友好交流都市縁組を締結
- 1987 第1回津山国際総合音楽祭開催
- 2003 町村合併により美作市、真庭市、美咲町が誕生。新たな津山市、鏡野町が発足
- 2013 美作国建国1300年を迎える



美作国の天保国絵図

天保国絵図は、天保6年（1835年）に江戸幕府からその作成が命じられ、同9年（1838年）に完成。山や川、道路などのほか、郡別に色分けされた楕円形の枠内には村名と石高が示され、当時の様子を伺い知ることができます。（旧旭町の一部が備前国、旧北房町の一部が備中国、旧建部町の一部が美作国に含まれていたため、現在の美作圏域図とは形が異なります）

**美作を紡ぐもの**  
わたしたちが長い年月受け

こうして、古い制度や考え方は徐々に姿を消していきましたが、それでもわたしたちの心の中には、みんなの気持ちをひとつにする何かが残っていると思います。

# 私たちの美作を紡ぐもの

## ～1300年の経と緯～

和銅6年（713年）4月3日、備前国から北部6郡（英多・勝田・苫田・久米・大庭・真島）が割かれ、美作は国として、そして言葉として誕生しました。それ以前、統一的地域としての名称があったのかどうかは分かりません。しかし、この時、わたしたちが住むこの地は、名実ともに「美作」となりました。今から1300年前、わたしたちの大先輩はその一歩を踏み出し、美作の歴史を歩み始めたのです。現在まで続く美作が培ってきたものについて、津山郷土博物館の尾島治館長に話を伺いました。



津山郷土博物館 尾島 治館長

**美作はひとつ**  
江戸時代初期、正保2年（1645年）刊行の俳諧書『毛吹草』が、美作国名産として取り上げた産物は4品で、「塩硝、木地、高田硯、誕生寺誕生木数珠二用之、法然上人誕生所也」とあります。当時、森家が美作一国を治めて、政治的に美作はひとつでした。元禄10年（1697年）に森家が改易となり、松平家が入封し、美作国内が分割されても『美作鬢鏡』や『美作風土略』など、美作はひとつの範囲として語り続けられ、美作をひとまとまりと考える意識は変わっていませんでした。また、江戸時代の大名は、將軍家への献上品や大名同士の贈答品に、御国元（領内）の産物を用いることが多くありました。津山藩主・松平家でも、さまざまな名産品を贈っています。最近の研究によれば、これらは必ずしも領内の産物のみではなかったと考えられています。松平家にとって国元とは、領地ではなく美作国を指していたのです。

継いできた「美作」とは、一体何なのでしょう。地域の固有の文化を代表するものとして言葉があります。けれど、美作の言葉は閉鎖的に受け継がれてきた訳ではありません。人びとの往来によって、育まれたものです。美作の人びとは、美作国建国前から、山陰や山陽を始めとする各地と物資の交流を行ってきました。そして、都と諸国を結ぶ官道の整備が進み、美作国が建国された後には、その交流範囲はさらに広がっていったでしょう。中世になって武士社会が到来すると、多くの武将が遠く離れた所領へと移り住みました。関東や九州から美作にやって来る武将もいました。慶長8年（1603年）、美作国に入封した森家は、家臣は元より商人・職人たちと共に、東美濃地域（現岐阜県東部）の言葉や習慣をもたらしました。また、後に津山藩を治めた松平家は越前や越後（現福井県・新潟県）、あるいは江戸の言葉や文化を伝えたと考えられます。全国へと交流が広がります。多くの風俗や習慣に触れるこ

### 美作圏域10市町村広報紙で 合同記事を掲載

今月は、美作国建国1300年記念事業の開幕に合わせ、美作圏域10市町村の共同特集（P1～5）としています。表紙には、この記念事業のイベントに参加している人や実行委員として関わっている人が登場。（各市町村から1人）この記念事業の目的である、「美作地域をつなぐ」をイメージして制作しました。さあ、つながろう！

### 今月の表紙の人

上段左から▶光岡宏文さん（津山市：津山青年会議所理事長）、原まち子さん（勝央町：街道祭実行委員・いろいろぐみ代表）、片田八重美さん（鏡野町：製作者集団「猪八戒」代表）、重近房子さん（久米南町：町文化協会副会長）、中段左から▶三谷弦太朗くん（真庭市：ミュージカル「みまさか猿神退治」子猿役）、白岩将伍さん（西粟倉村：村役場観光担当）、下段左から▶日名川茂美さん（美咲町：作州緋後継者認定）、安藤由貴子さん（美作市：郷土絵本作家）、石藤延史さん（新庄村：村役場観光担当）、柴田和真さん（奈義町：奈義町歌舞音座お囃子隊メンバー）

### 美作の歴史を楽しく学ぶ 歴史冊子を制作！

建国1300年記念事業では、美作国の歴史冊子「みんなで学ぶふるさと美作のあゆみ」を制作しています。旧石器時代から現代までの美作の出来事をまとめた1冊。写真やコラムなどをふんだんに使っており、楽しく学べる内容になっています。美作地域の小学校などで使われるほか、図書館でも見ることができるようになります。



美作のことがとってもよく分かる冊子なんじゃ。やさしい言葉で書かれていて丁寧な解説もある。これを見てワシももう1度勉強してみようかの～。

